

日本の魅力を活かした船旅の活性化について

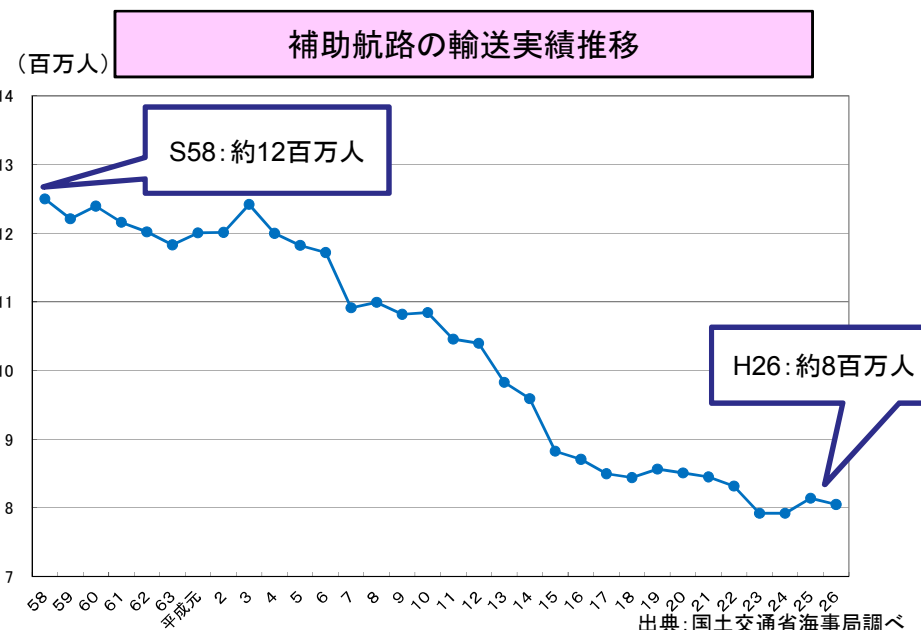
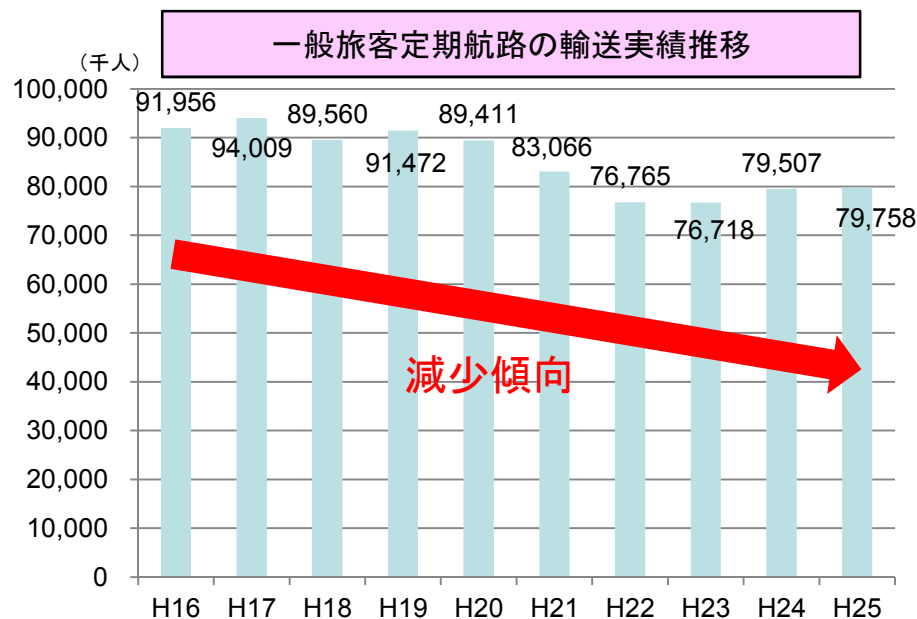
国土交通省 海事局
内航課

平成28年2月2日

国内旅客船の現状

● 国内旅客船の維持・活性化

国内旅客航路においては、モータリゼーションの進展、離島をはじめとする人口減少等により、利用者の減少に歯止めがかからない状況にあり、航路維持・存続が厳しい状況にある。



● 船旅の活性化

海をテーマとする旅は、海洋国家である我が国の魅力として様々な可能性を有するとともに、国内各地、特に離島を結ぶ手段であることから、地方創生に資する潜在力があり、期待が高まっている。

- 海洋観光の振興に向けての最終とりまとめ (平成26年6月、海洋観光の振興に関する検討会)
- 海洋観光・海を身近に懇談会 (平成26年9月～国土交通省海事局)
- 観光立国実現に向けたアクション・プログラム2015 (平成27年6月、観光立国推進閣僚会議)
- 基本政策部会とりまとめ～海洋立国日本の前進に向けた今後の海事行政の目指す方向2015～

海洋観光を巡る政策の位置付け

○ 観光立国実現に向けたアクション・プログラム2015 (平成27年6月観光立国推進閣僚会議決定)

3.地方創生に資する観光地域づくり、国内観光の振興

(7) 日本の魅力を活かした船旅の活性化

○ 旅客船は、国内の交通手段・観光資源として、重要な役割を果たしている。しかしながら、島国日本の豊富な海洋観光資源に鑑みれば、手軽な船旅を期待する日本人に訴求する旅行商品の造成など、まだまだ市場の開拓の余地は大きい。(中略) 日本各地を海路で結んで海からの景色や各地の船旅の魅力を楽しませる船旅を活性化させ、日本を訪れる外国人旅行者の期待に応えるとともに、日本人にとっても国内クルーズ・船旅が身近になるような環境整備を進める必要がある。

・国土交通省・観光庁、旅客船事業者、観光関係者等が集まって「船旅活性化協議会」(仮称)を立ち上げ、カジュアルクラスなどのクルーズサービス、国内フェリー、離島航路、遊覧船など様々な船旅の選択肢をわかりやすく提示するとともに、キャンペーンを通じて利用促進を図ることにより、船旅が身近になる取組を進める。

○ 基本政策部会とりまとめ～海洋立国日本の前進に向けた今後の海事行政の目指す方向2015～ (平成27年7月とりまとめ)

2.5 観光立国の推進

1) 手軽に船旅(「ふなたび」)を楽しめるサービスの創出

(i) 国内フェリー、離島航路、遊覧船等の活用

(ii) 地域の魅力を活かした旅行商品の新たな開発

(iii) 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を見据えた東京の水上バスの利用促進

(iv) 船旅が身近になる取組の一層の推進

瀬戸内海における船旅の例

せとうちサイクルーズPASS
((一社)中国旅客船協会:42社、41航路)

- 瀬戸内海を訪れるサイクリング目的等の観光客の増加を活かし、サイクリング観光客向けに乗船料を割引く取組。



宇高航路サンセットクルーズ、オータムクルーズ
(四国急行フェリー株:宇野~高松航路)

- 夏場の夕方に出航する便で宇野~高松間を往復し、ビール等を飲みながら瀬戸内海の多島美を楽しんでもらう。秋シーズンは、宇野港、高松港周辺の散策とセットにした船旅を提供。

ドック回航を利用した瀬戸内お散歩クルーズ
(有)野島海運:三田尻港~木曾造船)

- 定期航路船のドック回航を利用し、日中の瀬戸内海を周遊。

三田尻港の歓迎風景

ガイドさんの案内

野島海運(有)「レインボーあかね」

通常の定期航路

その他地域における船旅の例

○長崎における船旅

世界遺産を巡る軍艦島周遊(上陸)クルーズ
(長崎港～軍艦島(遊覧船))

- 「軍艦島《端島・無人島》」の上陸周遊ツアーを各運航会社独自で企画。船内において軍艦島の歴史的説明を行い、出航後は長崎港内にある三菱重工業(株)長崎造船所の構成資産及び長崎市内の観光スポットを案内している。



九十九島遊覧船
(させぼパール・シー(株):九十九島観光遊覧航路)

- 夏から秋までのサンセットクルーズや9月～10月の1日限定で弁当・飲み物を付けた観月会クルーズ、元旦に日の出を見る初日の出クルーズ(ぜんざい付き)等、九十九島の自然を余すことなく堪能できるクルーズにより誘客。



○大都市における船旅(主に舟運)

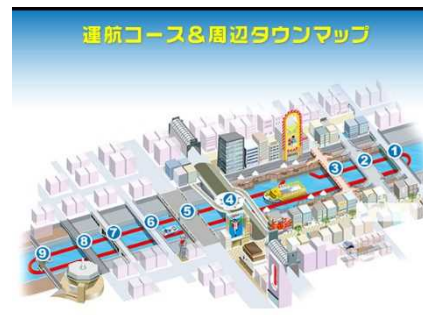
屋形船でのビアガーデンクルーズ
(江戸前汽船(株))

- ライトアップされた東京スカイツリーを船上から見上げながら、情緒ある夜の隅田川を回遊。飲物を片手に、船上での“非日常の雰囲気”を楽しむことができる。



とんぼりリバークルーズ
(一本松海運(株):道頓堀遊覧船)

- 大阪の観光スポット道頓堀を、ガイド付きで20分で周遊するクルーズ。短時間で各種割引パスなどの使用もでき、観光客に人気。



外国人の利用増が期待される船旅の例

船から見た世界遺産富士山
(駿河湾フェリー: 清水～土肥航路)

- 富士山の世界遺産登録により、外国人の利用客が増加。



イルカウォッチング
(株)シークルーズ: 本渡～松島航路)

- 香港のTV番組で天草のイルカウォッチングが紹介。



離島の魅力発信
(座間味村: 泊～座間味航路)

- ミシュラングリーンガイド掲載、国立公園指定により、外国人の利用が増加。



それぞれの地域の“強み”を活かし、外国人のニーズを捉えた船旅の商品開発を行い、それを地域の魅力の1つとして自治体による海外プロモーションやビジットジャパン事業で発信

業界団体、国等における取組の例

事業者、団体における取組例

【事業者】 ㈱フェリーさんふらわあの取組



- ・ 夜間の航海を利用した夜の星空教室や期間限定で昼の瀬戸内クルーズを実施
 - ・ 格安の弾丸フェリー(例: 神戸～大分間往復(船中2泊: 最安10,000円))を実施
 - ・ 観光マーケティングを学ぶ大学生と協力し、乗船体験で得た新たな船旅の魅力
 - ・ 就航地の観光情報を若者に向けSNS等で発信
 - ・ 大学生の声がきっかけでキャラクタールームを設置(ハローキティ、くまモン)
- ⇒ 2013年6月からの半年間で延べ700名以上利用



星空教室



ハローキティルーム

【団体】

○ ファムトリップ

(日本旅客船協会、日本旅行業協会が連携して実施)

- ・ 2008年から実施。航路の特性に応じてどのような船旅が企画できるのか旅行業者と検討。

<参考>これまでの開催状況

- 第1回 太平洋フェリー「きそ」 仙台～名古屋
- 第2回 しまなみ橋めぐりと瀬戸内歴史探訪クルーズ
- 第3回 五島列島の旅
- 第4回 島原・天草・有明海の旅
- 第5回 下北の旅
- 第6回 伊豆・駿河湾の船上から世界遺産「富士山」を望む
- 第7回 ロマン漂う神戸と湯布院を船でつなぐ
- 第8回 利尻島・礼文島の新たな観光資源発掘

国における取組例

○ 「離島巡りツアー」の企画 (北海道運輸局)

観光による地域活性化や離島航路の利用促進を目的として、2013年に運輸局が主体となって道内の離島(天売・焼尻島)を巡る旅行商品を企画、旅行代理店を通じて販売。その後、利尻、礼文島を巡るツアーも実施。

⇒ 2013年度の離島航路の乗客(利尻・礼文航路)は前年度比1万人増(約54万人)



利尻富士



焼尻サフォーク羊

現 状

- 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催も見据え、増加する訪日外国人等に対し、多言語化等の取組を通じて利便性の向上を図っていくことが求められているが、取組を充実させる余地がまだまだある。

取 組

- 「水のまち東京における舟運活性化に関する関係者連絡会」

(国土交通省、関東運輸局)

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機として、今後の増加が見込まれるインバウンドへの対応や東京の舟運の魅力そのものの向上、外国人の更なる利用拡大を目指す。

<これまでの取組と今後の予定>

舟運のPR(隅田川及び東京ベイエリア)

平成26年9月のツーリズムEXPOジャパン開催時に外国の旅行者を対象とした屋形船のPRを実施。船内で提供される料理(原材料等)の英語での説明の充実を求める声が多かった。



屋形船を楽しむ外国人

また、平成27年7月の海の日的前後に舟運のPRを目的とした「水のまち東京・舟運まつり」を実施。

新たな商品の開発

舟運そのものの旅行商品としての魅力の向上や外国人の利用拡大を念頭において、新たな商品開発を目指す(屋形船、水上バス)。



新規航路の開設の検討

新たな観光資源として水上交通を活性化していくために、船着き場の整備や新規航路の開設に向けて関係者と検討を進める。



船旅活性化協議会における検討の開始

大都市圏を始め各地の船旅が広く知られていなかったり、船が単なる移動手段に止まっているケースが散見され、必ずしも誰もが身近に手軽に船旅を利用できる状況にはなっていない。



海からの景色や各地の魅力を楽しませる船旅の魅力を活性化させ、日本を訪れる外国人旅行者の期待に応えるとともに、日本人にとってもクルーズ・船旅が身近になるような環境整備を進める。

< 船旅活性化協議会における検討の開始 >

国土交通省・観光庁、旅客船事業者、観光関係者等で構成し、カジュアルクラスなどのクルーズサービス、国内フェリー、離島航路、遊覧船など様々な船旅の選択肢を分かりやすく提示するとともに、キャンペーンを通じて利用促進を図ることにより、船旅が身近になる取組を検討。11月5日に第1回協議会を開催。島めぐりの旅、東京・大阪の舟運、大型フェリーによるクルーズをテーマとした商品の具体化を検討しているところ。

○島めぐりの旅の例

・フェリーを利用したキャンピングカーによる瀬戸内海島嶼の観光地を周遊



○東京・大阪の舟運の例

・宇宙船をイメージした船から見る東京の風景



○大型フェリーによるクルーズの例

・大型クルーズ船を乗り継ぎ、全国各地の観光地を巡る日本一周の旅

